

# 診断京都

一般社団法人 京都府中小企業診断協会

No.124  
2018年 冬号

## 2019年(平成31年)を迎えて

～「Change(変化) Challenge(挑戦) Contribution(貢献)」～

あけましておめでとうございます  
旧年中は京都協会並びに診断士  
会(組合)の活動にご高配を賜り  
ありがとうございました  
本年もどうぞよろしくお願  
い申し上げます



昨年を振り返りますと、経済・経営面では、景気回復期間が戦後最長に迫りました。一方で、インバウンド需要や輸出に一服感が出てきており、戦後最長を越えられるかどうか微妙なところですが。社会・文化面では、本庶佑氏がノーベル医学・生理学賞を受賞されました。定説を打ち破り、ひたすら基礎研究を続けられ、その成果が評価されたと記憶しています。「挑戦」の大切さを再認識した次第です。年末には、2025年の万国博覧会の会場が大阪に決まりました。2020年の東京オリンピックに続き、明るい話題が加わりました。さらに、「2020年秋以降に宮津、京丹波町、南山城村それぞれの道の駅にホテルを建設する予定」との発表がありました。こちらも明るい話題で、地域の活性化が期待されます。

京都協会では、既存事業に加え、簡易版の経営改善計画策定支援や宿泊施設等の経営改善に向けた助言など新しい事業にも取り組みました。新たな研究会が立ち上がるなど、協会内に賑わいも出てきました。創設60周年に向けた準備も進めて参りました。お蔭をもちまして概ね年度初めの計画に近い形で決算を迎えられ、社会貢献積立も継続できそうです。みな様のご協力に感謝申し上げます。

本年はどうなるでしょう。経済・経営面では、米国の貿易摩擦や中国景気の減速など海外リスクが膨らんでおり、好況の持続について予断を許さない情勢になっています。また、人手が不足する中、規模の大小を問わず、人材育成や省力化投資に力を入れ、生産性を高めることが重要になっています。10月には消費税率が10%に引き上げられます。インバウンド重要は底堅く推移するでしょうが、日本人の消費マインドが縮小するのではないかと懸念されます。軽減税率対策やキャッシュレスポイント還元対

策なども課題です。

社会・文化面では、4月30日に現在の天皇が退位され、5月1日には皇太子様が新天皇に即位され、新元号になります。AIやIoTなどの技術革新が基盤となって新たな価値やサービスが創出され、経済財政白書に見られる「society5.0」に向けて一歩前進することでしょう。

さて、60年前の昭和34年、社団法人中小企業診断協会の京都支部が、中小企業施策に協力する団体の一員として産声を上げました。以来、京都府、京都市を始め、支援期間、団体、金融機関等と共に歩んで参りました。お蔭をもちまして2019年、創設60周年を迎えることができました。ついては、5月25日(土)に創設60周年記念大会を予定しています。万障繰り合わせの上、ご参加賜れば幸いです。他にも本年は様々なイベント等を予定しています。2月には京都経済センターへの事務所移転します。3月には京都協会と組合の一体化を行います。秋には、中小企業診断協会近畿ブロック会議が京都で開催されます。恒例の厚生事業やシンポジウムなども予定しています。盛りだくさんの1年となりますが、着実に一步一步、取り組んで参りたいと存じます。

ところで昨年、自動車業界においても大きな動きが見られました。大手自動車メーカーとIT関連企業が自動運転技術など新しいモビリティサービスで提携し、共同出資会社を設立するという発表がありました。コンピュータが軍事用機器から産業機器へ、そして家庭電化製品化してきたように、自動車も産業機器からステイタス商品へ、そして都会では所有からシェアへ、地方では生活必需品化してきました。今も留まるところを知らず、AIなどを触媒として、日々進化を続けています。

私たち京都協会も、現状に留まることなく、「Change(変化)・Challenge(挑戦)・Contribution(貢献)」の理念の下、様々な活動を展開して参ります。旧来にも増して、みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年も皆様にとって良き年でありますよう  
お祈り申し上げます (山脇 康彦)

# 京の起業家

## 京の起業家② urujyu(ウルジュ)

京都府商工会連合会よりご紹介をいただき、「urujyu(ウルジュ)」を平成27年3月に京都府南丹市で開業し、平成29年に亀岡市に本拠地を移された清水愛(しみず あい)様にお話を伺いました。



清水 愛氏

### ■事業の概要を教えてください

「日本の伝統的な漆器を多くの人に使ってほしい、文化として継承する」、「漆器を作る技法を次の世代に伝える」、「漆器の原料となる漆の生産量を回復させて、生産地の漆を使った漆器の製造が可能な環境を残す」、の3つの目的を持って事業に取り組んでいます。

具体的な事業内容としては、漆器製品・金継ぎキットの制作・販売、金継ぎ教室の開催や個別の金継ぎ受注業務などを行っています。また、起業前からの関わりですが、「NPO法人丹波漆」に参画して、植林や作品展、シンポジウムの開催など、国産の漆が生産できるようにする環境づくりに取り組んでいます。

### ■起業までの経緯を教えてください

平成14年から漆について学び始め、京都の漆作家のもとに4年半の弟子入りを経て平成20年に個人作家として独立しました。その後、平成27年にurujyuを起業しました。



金継ぎワークショップのキット

個人作家のときは作品づくりが主で兼業での活動であったのですが、漆を初めて10年の節目に京都漆器組合の漆器展で受賞をしたこともあり、漆に専念することを考えたのが起業のきっかけです。起業にあたって、先述の3つの目的を掲げました。

### ■商工会からはどのような支援を受けましたか

起業を考えた時期に商工会に相談に行ったのが最初で、展示会への出展やurujyuとしてのブランディング、商品のパッケージデザイン、ろくろ設備の導入、近年取り組んでいる海外販路開拓など、様々なことで支援を受けました。経営支援員の方からのアドバイス・情報提供や、専門家を派遣いただいたの指導などで、継続的にお世話になっています。特に現在は1人で事業に取り組んでいるため、経営の相談相手としてなくてはならない存在です。

### ■海外の販路開拓について、詳しく教えてください

海外ではお皿の大きさや形、外食の頻度など食文化の違いがあるため、現地に精通したコーディネーターと共同で企画を進めています。以前に金継ぎ教室の短期コースを受講されたドイツ人からの紹介を受けて、12月にドイツとフランスで金継ぎワークショップの開催を計画しています。あわせて、ギャラリーや学校との関係づくり

を行い、次の展開にもつながればと考えています。ワークショップの英語教材は独自に制作いたしました。各国語への翻訳は対応ができていないため、今後、インターン生に依頼してやってもらうということも考えています。

### ■起業で苦労されたことは何でしょうか。

継続的に雇用して、仕事をしてもらうという面で、難しさを感じています。起業して間もなく、学生さんに3年弱ほどアルバイトで来てもらいましたが、その方が大学を卒業してからは、海外からの短期インターンの受け入れに切り替えました。結婚、妊娠、出産など自身のライフステージが変化する中で、漆器の製作はペースを落とし、その間、金継ぎセットの開発や金継ぎワークショップの強化を行い、人に仕事をしてもらいながら事業を進めるのに良いバランスを常に模索しています。

現在は育児と仕事のバランスをとりながらのため、今まで通りの時間の使い方ができないもどかしさがありますが、一方で、これまでの経験から事業の選択と集中をする判断基準も磨かれてきました。これまで仕事をご一緒させていただいた方々とのご縁を大切に、柔軟な発想で次の展開を考えていきたいと思っております。

### ■これからのビジョンを教えてください

漆器やその原料となる漆を国内で生産し、漆器や金継ぎの文化が受け継がれ、産業として循環する状況が当たり前になるような未来を思い描いています。海外進出に取り組み始めて強く感じますが、西欧では金継ぎのブームが起きており、urujyuの活動が、海外も巻き込んだ漆文化循環のネットワークのひとつのハブとしても機能できればよいと考えています。



urujyuの工房で育てているウルシの苗

(取材 松下 晶)

### 【南丹市商工会 経営支援員 古田孝之氏より】

京都らしい「はんなり」した言葉遣いや表現が印象的な清水さん。商工会には起業当時からご相談いただいております。現在は海外への販路開拓に関するご相談を多く受けています。ライフスタイルに沿った独自の経営スタイルを確立され、自身のやり方やペースに合わせて事業を展開されており、その取組からは現代人が忘れかけているヒトの温かみやモノを大切にする心が感じられ、私自身とても共感しております。これからも応援しています！

### 【店舗情報】

■urujyu(ウルジュ)

Website : <https://www.urujyu.com/>

Instagram : @urujyu

Address : 〒621-0825 京都府亀岡市篠町山本南条20-14

Mail : [info@urujyu.com](mailto:info@urujyu.com)

## 多様な生き方働き方と経営 ④

京都市ソーシャルイノベーション研究所（以下、SILK）チーフ・コンシェルジュの川勝です。私は2004年に公益財団法人京都高度技術研究所に入所し、総務部や新事業創出支援部等を経て、2015年よりSILKに配属されました。SILKは、持続可能な社会の構築に貢献する「サステナブル・カンパニー」を支援し、ソーシャル・イノベーションの創出を後押ししています。私はその中でコンシェルジュとして、バックオフィス業務全般（問合せ対応、企業支援に伴う調整、イベント開催準備・運営、広報等）を担当しています。今回は、会社員としての就業経験しかない私が、仕事をつうじて自己実現を考えるようになった経緯をご紹介します。経営者の皆様にとって、人材確保や人材育成のヒントになれば嬉しいです。



### ■「働きがい」のある職場について

人材確保や人材育成に頭を悩ませている経営者の方も多いかと思いますが、「働きやすさ」についてはたくさん事例があるので、今回は「働きがい」について触れたいと思います。そこで、まずは経営者の皆様にお尋ねしたいことが2つあります。

#### ① やりたかったこと、できてますか。

過度な競争に巻き込まれ、いつの間にか、会社を存続させること自体が目的になっていませんか。利益を追求するために、自分が納得できないモノづくりをしたり、従業員や取引先に無理をさせることが続いていませんか。

しかし一方で、「社会の中で自社はどうありたいか」と理念を磨くことで、それに共感する人が現れ、従業員のやりがいやファンづくりにつながり、売上が向上した事例もあります。そういう事例が増えてほしいと思っています。目的と手段がテレコになっていないか、是非、今一度振り返ってみてはいかがでしょうか。

#### ② 会社の理念、従業員に伝わっていますか。

経営理念への共感度合で、従業員1人1人の仕事への取組み方も変わります。「仕事だから」と割り切って仕事をする方は、言われたことはやりますが受け身になりがちです。人の価値観はそれぞれですから、それももちろん、悪いことではありません。しかし、それがミッションをもって取り組む方は、普段から様々な情報にアンテナを張っている分、新たな提案をしたり、実現するために工夫ができたりと自発的になります。御社の理念に共感する従業員が増えれば、それだけ多くのアイデアが出たり、自発的な行動が増えたりと、チームのパフォーマンスがあります。

### ■理念に共感するコミュニティで得た変化（体験談）

以前はオンとオフを完全に分けて生きてきた私ですが、SILKの理念に共感して集まった、生き方と働き方を一致させている方々と一緒に働くことで、自分が

仕事をつうじて何をしたいのか、ということを考えるようになりました。そこから、自分がめざす未来、それに向けて自分が関わること、SILKで働くからこそできることに気付き、今では自分の時間を使って、支援している企業のイベントに参加したり、業務につながる情報収集をしたり、それが自分の糧になることが楽しいです。

最近の行動としては、SILKで仕事をしていて、ベンチャー企業と事務員のマッチングの必要性を感じており、ソーシャルイノベーターの事務のお手伝いをするようになりました。持続可能な社会をつくるためには実践者と支援者の両方が必要ですが、私は日々の仕事でSILKコーディネータ（つまり、支援者）の業務にも、ソーシャルイノベーター（つまり、実践者）の業務にも直接関わっています。外部の人間としてではなく、内部の人間として双方に関わることで双方への理解も深まり、支援に活かしています。

そして、想像以上の意義もありました。本業以外の場でもスキルを必要としてもらえ、自己肯定感がアップしました。また、視野が広がりました。他社のやり方から学ぶことは多いです。例えば、私は請求書を主にExcelで作成しているのですが、ここでは会計ソフトを利用しており、そこで初めて、最近の会計ソフトには請求書の毎月自動作成や自動メール送付などの機能があることを知りました。Excelも私にとっては慣れているので使いやすいのですが、業務上で特に不便を感じていなければ、あえて新しいやり方を模索することはそうそうありません。新たなやり方に気付いたことも成果です。会計ソフトの操作にも慣れ、スキルアップにもつながりました。また、SILKで得た参考情報やSILKで協力できそうなことをお伝えできたり、つながりのある方を紹介いただいたり、リアルな現場の声を聴くことができ、多くのメリットがあると感じます。デメリットは今のところありません。

### ■生き方と働き方を一致できる職場づくりにむけて

生き方と働き方を一致させることで、自分の行動に対して矛盾を感じることは少なくなります。「好きこそものの上手なれ」であり、自分の仕事にいかに心をこめられるか。そういった個々のパフォーマンスを最大化できる組織が一番強いのではないかと思います。

SILKは、経営者の方が理念を磨くためのお手伝いをしています。また、「働きがい」「働きやすさ」を考える職場づくりのために、“\従業員の声からつくる／京の企業「働き方改革チャレンジプログラム」”にてチャレンジ企業各社の伴走支援を行っており、その事例集が今年度内に発行予定です。是非ご覧ください。診断士の皆様、経営者の皆様、SILK、京都市とともに生き方と働き方が一致できる職場を作っていきますか。

SILK WEBサイトはこちら→

（京都市ソーシャルイノベーション研究所  
川勝 美智子）



# 社会価値の創出と持続可能な経営モデルへの変革

4

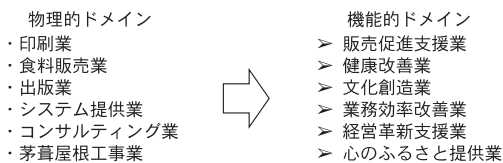
前号では、私の所属している山城萱葺（株）の事例をもとに、社会的課題の認識とフォーカス（集中）の取り組みを説明してきました。最終号では、社会的課題を起点とした事業創造事例を解説していきます。

## ・事業の価値を再定義する

山城萱葺（株）での主な事業は茅葺き屋根工事です。茅葺き屋根市場は、急速に縮小しており、数十年前までは全国各地で残っていた茅葺き民家は年々減少し、現在では家を購入するときに茅葺き屋根を選択する人は、ほとんどいないというのが現実です。また、火災の延焼防止を目的に住宅の屋根に不燃材使用を定めている建築基準法第22条の規定により、新築で茅葺き家屋を建てることは難しい状況です。

このような厳しい事業環境の中で、茅葺きの「屋根」以外での新しい事業価値を見出す必要がありました。茅葺きには、「どこか懐かしさを感じる」、「心が落ち着く」等、非日常的な空間としての価値（顧客価値）があります。さらに社会的視点で価値を考えた場合、「里山の生態系や自然環境を守る循環型システムの構成要素」、「古茅は堆肥として利用される無駄のない資源」等が挙げられ、茅葺きは社会で貴重な価値（社会価値）を提供していることが見えてきました。これらの価値から「心のふるさと提供業」と自社の機能的事業ドメインを設定しました。茅葺き屋根工事業から心のふるさと提供業にドメインシフトすることにより、自社が価値提供できる範囲（顧客ターゲット）が広がり、顧客の先にある社会をステークホルダーとして捉えることで、幅広い事業展開が可能となります。自社が提供する社会価値から何屋かを考えていくということです。

### ◆事業の価値を再定義する



### 機能的ドメインを設定するメリット

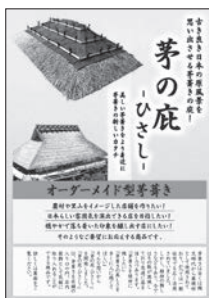
- ① 自社が価値提供できる範囲（顧客ターゲット）が広がる
- ② 顧客の先にある社会をステークホルダーとして捉えられる

自社が提供する社会価値から、何屋かを考える

## ・社会課題を起点とした事業創造事例

これまでの現状整理から3つの事業が立ち上がりました。その一例をご紹介します。

1つは機能的事業ドメインからの事業創造です。価値の提供先を広げるために、これまで茅葺きとは縁のなかった人をターゲットとし、「美しい茅葺きをより身近に、茅葺きの新しいカタチ」をコンセプトにした、オーダーメイド型茅葺き「茅の庇ーひさし®」事業です。店舗や自宅に茅葺きを取り



商品パンフレット

付けて、茅葺きの持つ情緒性や懐かしさを都市部で気軽に感じて頂ける商品として開発しました。これは、新規顧客開拓や雨天時の代替業務の確保、職人の育成等の事業課題の解決にも繋がる事業となり、京都府の経営革新計画の承認を取得することができました。

もう1つが、「伏見のヨシ原、再発見！」プロジェクト事業です。これは茅葺き屋根の材料供給地である京都市伏見区の宇治川で、山城萱葺（株）が長年管理してきたヨシ原の再生と活用を市民ぐるみで行っていくこと、市民団体の伏見楽舎と共同で発足したプロジェクトです。山城萱葺（株）と伏見楽舎、ヨシ原がWin-Win-Winの関係となる協働の仕組みです。これまで、持続可能なヨシ原の保全と活用を目指し、琵琶湖・淀川水系のヨシ原の関係団体や専門家が一堂に会したヨシ原サミットやシンポジウムの主催、地域住民や子供達向けの体験会の開催などを行ってきました。会社単体ではなく、地域と協働によって茅葺き材料確保と里山保全を目指す。このような取り組みを行っているのは、ヨシ原保全活動は、地域貢献という側面だけでなく、中長期的な材料調達のための投資の一環と捉え、自然環境の保全活動が事業活動の根幹を支えていると考えているからです。



伏見のヨシ原体験会

「結（ユイ）」これは、日本の集落で長らく維持されてきた、人と人、人と自然の助け合いの仕組みです。2000年以上の歴史がある日本の協働の原点であり、茅葺きが受け継がれてきた仕組みそのものです。多様な主体の連携による新しい結（ユイ）のカタチにより、地域・社会・環境との共生を図っていくことが、現代社会での山城萱葺（株）が貢献できる社会役割だと信じて取り組んでいます。

### 『結（ユイ）』

人と人、人と自然の助け合いの仕組み  
2000年以上の伝統がある茅葺き文化の象徴

集落で受け継がれてきた『協働』の原点



茅葺きは社会課題を生まない、人と自然が共生する仕組み  
現代社会において、新しい結（ユイ）のカタチを実践し、茅葺きの社会価値を創出していく

## ・まとめ：「社会はビジネスの転換点にある」

現代社会は、一昔前とは違って商品・サービスのコモディティ化や市場の成熟化、ニーズや価値観の多様化が進み、そして経済成長により社会的課題が増大しています。

企業による社会価値創出は、企業と社会の双方にメリットがあり、企業の競争優位性の創出に繋がるビジネスチャンスと捉えることができます。また、1社単体で課題解決を図るのではなく、他企業や行政、地域住民等との協働による取り組みは、地域社会において企業の存在価値を高めることにも繋がります。地域企業として、社会に必要とされる企業が増え、「企業と地域・社会・環境が共生する未来」が実現することを願って、本連載を終わりたいと思います。（石井 規雄）

## 平成30年度 会員交流会開催

平成30年9月29日（土）、入会3年以内の方（以下、新入会員）を対象とした会員交流会が開催されました。当日は京都商工会議所の貸会議室で行われ、16名の新入会員と理事の方々（山協会長、坂田副会長、岡原副会長、成岡常任理事、松井理事、藤村理事）と3名の先輩会員（石井規雄会員、中西昭人会員、松下晶会員）にもご参加いただきました。毎年2月に行われてきた当会ですが、今年度は新入会員の入会時期に合わせて9月下旬の開催としたことで、多くの皆様にとって協会の活動に触れる最初にして絶好の機会となりました。

第1部は会員の自己紹介でスタートし、理事や先輩会員の皆様から研究会や事業等、協会の活動内容についてご説明をいただきました。新入会員の皆様からの積極的な質問に、理事や先輩会員の皆様から丁寧にお答えいただきました。第1部の締めとして、南肇之会員から「京都府中小企業診断協会に期待すること」に関してお話し頂くと、理事や先輩会員の



皆様との間で「企業内での診断士資格の活用」についての白熱した意見交換へと発展し、交流会第1部のラストを飾るにふさわしい華々しい幕引きとなりました。

第2部では「ふれあい海鮮酒場 烏丸元気市場」に移動しての懇親会が執り行われました。お酒も入った和やかな雰囲気の中、参加者全員が積極的に席を移りながら、多くの皆様との交流を楽しんでいました。締めのご挨拶として、僭越ながらも私から次回の世話役として指名させて頂きました南肇之会員、伊佐嘉仁会員から、来年の交流会に向けての抱負を頂戴しました。今年度充足した集集会をはじめ、新入会員にとっての活動の場が多く存在することが、京都協会の魅力の一つであると改めて実感できました。最後に、世話役としてこのような経験をさせて頂き、理事や先輩会員の皆様のご協力のもとで多くの皆様にご参加いただけたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



（森井 義英）

## 平成30年度 第2回 理論政策更新研修 報告

去る10月13日（土）、京都駅正面のメルパルク京都にて本年度2回目となる理論政策更新研修が行われました。

第1講目は、昨年度に引き続き、京都市産業観光局長 上田 誠様より、「京都市の経済について」と題しご講演いただきました。新しいトピックとして、働き方改革実践プロジェクト、10/1から施行された宿泊税、匿名化された健康・医療データを活用する次世代医療ICT新事業創出事業、伝統産業の後継者不足と障害のある方の就労支援の課題を回るための伝福連携担い手育成事業等について紹介がありました。京都という伝統・アカデミックな都市において、モノづくりと観光という京都産



業2大柱をどう支援していくかについて詳しく解説いただきました。

その後、休憩を挟んで第2講目は、小峰 潤協会会員より「中小企業のためのアジアビジネス展開

支援」についてお話がありました。海外への投資や提携、輸出を目指す「アウトバウンド」ビジネス、海外からの旅行客をとらえるための「インバウンド」ビジネスについて、各ケースに応じた最適な手順や留意点を事例を交えて解説をいただきました。

110名を超える方々が熱心に講義していただき、4時間の研修が終了しました。（杉村麻記子）



## はんなり診断士 一年男からの一言



坂本 淳

新しい元号の始まる今年は、平成とは違ったクリエイティブな取り組みを始めたいと思います。20代で学校を卒業し、40代で会社を卒業。今度は60代で診断士を卒業することを目指し、次の世界を模索中です。



松田 茂

いろいろな方に助けていただき無事に今年で還暦を迎え、診断士としても15年目となりました。次の年男まで健康で仕事が続けられるように願っております。よろしく願い申し上げます。



平成30年度

## 診断協会近畿ブロックの取組み

毎年、診断士の日を記念して、診断協会近畿ブロック（福井・滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山）の各協会が協力してイベントなどを開催しています。昨年度は、診断士の「トリセツ（取説）」なるものを作り、それをテーマとしてマイドーム大阪で講演会や事例展示会などを開催しました。本年度は、少し趣向を変えて診断士の「トリセツ（取説）」をベースにして、各協会が行政機関や支援機関と連携して取り組んだ、「中小企業診断士と支援機関の連携事例集」という冊子を作りました。

京都協会からは、松下会員による「京都ちびす（京都地域カビジネス）自立継続支援事業」、及び松井会員による「農業経営相談所事業（農業・農業ビジネス等の支援）」の2つの事例が掲載されています。

本事例集は行政・支援機関向けに作成されており、その目的は、各地域で行った支援機関等



と連携した事例を見て、他の地域でもこのような支援ができるのではないかと、という気付きを得て頂く事です。例えば、京

都ちびすの事例を福井県の職員や支援機関の方が見て、これは自身の県でもできるのではないかと気づいて頂き、福井県と地元診断協会が新たに連携して事業を始めるというシーンを想定しています。今回は、15の成功事例が掲載されています。尚、本冊子は先にも申し上げたように、行政や支援機関向けに作成したので、京都府内の行政機関や支援機関に優先的に送ります。しかし、まだ冊数に余裕がありますので、診断士としての研鑽に活用したいなど、興味のある方は京都協会事務所にありますので、ぜひ参考にしてください。（坂田 岳史）



## 平成30年度 中小企業診断協会 近畿ブロック会議及び情報交換会

平成30年11月22日（木）13時より、大阪マリオット都ホテルで近畿ブロックの会議と情報交換会が開催されました。ホストの大阪6名、府県会各1～2名、本部2名が出席し、20名で会議を行いました。本部専務



理事の野口様より、現時点での平成31年度概算要求に関する情報として、個人事業者の事業継承税制措置の創設、ものづくり補助金の当初予算化（不透明部分多数）が伝えられました。また、中小企業の働き方改革に企業内診断士の知見を活かし、より生産性を高められないかといった観点から、試験的にプロボノ活動の促進に取り組まれるそうです。具体的には、企業内診断士が、中小企業団体中央会、商工会・商工会議所等の公的支援機関の支援を行い、中小企業の発展促進を促すそうです。会議後半は、各府県会長が年度報告を行い、情報交換をしました。府県会の共通事項として、企業内診断士の方々の参加・参画を熱望していることが挙げられます。京都協会も強く望んでいます。この会報をご覧いただいている企業内診断士の皆さん、心待ちにしていますので、ぜひお気軽にご参加ください。さて、山協会

長からは年度報告に加え、来年度の京都協会60周年記念大会の企画書を配布し、案内と協力依頼を行いました。会議終了後、懇親会会場の57階のレストランZKに移動し、風谷大阪理事長と米田本部会長のご挨拶、福田前本部会長による乾杯のご発声で開会しました。煌めくハルカスの夜景を背景に賑やかに盛り上がり、懇親を深めました。大阪の理事の方々が各テーブルを移動しながらもてなしをしてくださり、府県の枠を超えともに活動しよう、BCPの観点から災害に関わる支援をしよう、といったアイデアも多数生まれていました。笑顔が溢れるなか、20時過ぎに横山大阪副理事長の中締めがあり、締めくくりとなりました。来年の近畿ブロック大会は、京都が担当です。京都らしいおもてなしでお迎えし、近畿の中小企業の発展につながるように、関係性が深められればと思います。（浦出 奈緒子）



## プロコンカレッジ

## ビフォーアフター ⑦



**石井 規雄**

(いしい のりお)

私がプロコンカレッジを受講したのは2014年で当時27歳、2期生でした。東京のコンサルティング会社で5年間勤務し、中小企業診断士の資格取得後に転職して、茅葺き屋根職人になる為に京都に移り、京都協会に入会した年でした。前職では、

戦略・ビジョン策定や営業組織力強化コンサルティングやITシステムの導入・運用の指導、研修・セミナー講師等に従事しており、プロコンとしての基礎は積んできたつもりでしたが、京都の診断士の先輩方から学び、より成長したいと思い受講しました。プロコンカレッジではスキルやノウハウはもちろんですが、先輩診断士からプロコンとしての心構えを学ぶことができたのは非常に良かったです。受講後は、所属する山城萱葺(株)の新規事業立ち上げや経営革新計画の承認取得等を行い、取り組んでき

た成果を経営革新支援事例論文にまとめ、昨年の中小企業経営診断シンポジウムで日本経営診断学会会長賞を受賞することができました。また、今年3月には山城萱葺(株)で環境大臣賞を受賞し、各方面から取り組みを評価していただきました。

現在は、茅葺き屋根職人としては一線を退き、山城萱葺(株)では取締役として経営管理や新規事業立案等に携わりつつ、アクセルコンサルティング(株)で岡原先生達と一緒に仕事をしたり、京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)でイノベーション・コーディネーターをしています。3つの仕事を掛け持つパラレルワーカーとして日々奮闘しています。

プロコンカレッジ受講後は、「企業と地域・社会・環境が共生する未来」を実現する為に、企業の社会価値向上をコンサルテーマに取り組んでおり、最近では環境省から社会起業家育成のメンターとして選ばれる等、多方面で活躍の場が増えています。

プロコンカレッジで学んだことを活かして、今後も企業や社会のお役に立てるように頑張っていきたいと思っています。

## プロコンカレッジ

## ビフォーアフター ⑧



**森井 義英**

(もりい よしひで)

なにわ経営効率研究所 代表  
一般社団法人  
事業者支援パートナーズ 理事

第5期プロコンカレッジを卒業しました、森井義英(もりいよしひで)と申します。当時26歳で、コンサル会社に勤務しながら中小企業診断士資格を取得したばかりの私は、数年後の独立を視野に入れており、とにかく様々な所に自己研鑽の場を求めておりました。そんな中、実務補修でプロコンカレッジ塾長の坂田岳史先生にご指導頂いたことをきっかけに、京都協会への入会とその年のプロコンカレッジへの入塾を決めました。

実際にプロコンカレッジで講義を受け、諸先生方からノウハウや体験談をご教授頂く中で、「自分も一刻も早く独立して活躍したい」という思いがより一層強くなりました。一方で、独立に対して「まだ経験不足ではないか」というただ漠然とした不安や自信のなさを抱いておりました。しかし実務従事の中で実際に企業様を訪問させて頂き、プロコンとし

ての仕事を経験させて頂く中で、不足しているスキルの内容が明確になり、今後クリアすべき課題として昇華させることができました。私の場合はコンサルとしての知識や経験よりもむしろ顧客の課題を聞き出す力、ヒアリング力を鍛えることが急務であるとわかりました。

実務従事を通してそこに気づくことができた私は、卒業と同時にコンサル会社を退職し、独立することに決めました。そして、独立までの3ヶ月間でヒアリング力を高められるよう、意識的に会社業務に取り組みました。

独立してからは講義で学んだ「専門分野をもつことの重要性」を肝に銘じ、コンサル会社で担当していた「コスト削減」を自身の専門と位置づけ、実践の中で磨きをかけています。プロコンカレッジで教わった営業方法を自分なりにチューンナップし、主にこれまでの人脈を活用した独自のルートで案件を獲得しています。また、プロコンカレッジでお世話になった先生方や先輩卒業生の皆様、同期の皆様とのつながりをもつことができたことで、今でもお仕事のみならず活躍のチャンスや様々なきっかけを頂くことが多く、私のプロコンとしての活動の礎となっています。

## ソフトボール交流会開催

去る平成30年11月10日(土)に京都御苑運動広場にて、京都府中小企業診断協会と京都商工会議所様との初めてのソフトボール交流会を開催いたしました。

試合後の懇親会も含めて、相互の連携と親睦を深めようと企画されたもので、診断協会から12名と京都商工会議所様から16名が参加しました。

幸いけが人もなく、楽しくソフトボールで交流を深めることが出来ました。野球部員を主軸にされた京都商工会議所様はなかなか手強かったです。(あ

わやコールドゲーム的な……)

ただ、試合結果のスコアは、けが人の数で競われたため、0人对0人で引き分けとなりました。その後の懇親会では勝敗に関係なく、和気藹々にとぎやかで楽しい時間を過ごせました。

また、来年の開催も予定しております。みなさんのご参加をお待ちしております。(賀長 哲也)



## 厚生事業を実施

厚生事業は今回で11回目となりました。会員同士が気楽に懇親を深めることを狙いとし、全会員が参加できるよう土曜日に開催しております。

今回は来年の改元を前に、京都市内の明治、大正、昭和、平成の代表的な建築物を巡りました。

参加者は、協会役員、支部長経験者、中堅・若手会員等14名の参加となりました。

12月1日(土)11時にJR京都駅中央口に集合。平成9年に開業した京都駅ビルを見学し、昭和39年建設の京都タワーから360度のパノラマを楽しみました。

その後、三条高倉にある京都文化博物館を見学しました。京都文化博物館の別館は明治39年に建設され重要文化財となっています。



懇親会は大正15年に建設された北京料理店「東華菜館」にて実施しました。鴨川、四条大橋が臨める個室で、楽しく懇談を行いました。歓談は協会創立60周年の話題にも及び、今回は特別に1泊2日の厚生事業としようなど大いに盛り上がる中、無事終了しました。(池田 寛太)

## 編集後記

平成最後の年末年始を迎えています。思えば、平成の30年間は「激動の時代」と呼ばれた昭和とはまた違った意味で激動の時代だったように感じます。バブル絶頂期に始まったものの幕開けまもなくバブルが崩壊し、日本経済は長い長い不況に苦しみ続けました。一方で、科学技術の発展は目覚ましく、パソコンやスマートフォンは私達の生活スタイルを大きく変えました。姿形のないデータが大きな価値を持ち、経済を動かすようになった今の世の中は、アナログな時代だった子供の頃に想像していた「未来」よりさらに何歩も進んでいるように感じます。これからも科学技術は光のごときスピードで進歩し、私達の暮らしを大きく変えていくことでしょう。

長い不況から抜け出し、未来への希望が見え始めた中で始まる新しい時代が良き世となることを心から願います。(足立 早恵子)

## 京都診断協会の行事予定

- 1月18日(金) 新年祝賀会
- 2月1日(金) 京都診断協会事務所移転
- 2月24日(日) 第3回理論政策更新研修

### 新住所

〒600-8009

京都市下京区四條通室町東入函谷鉾町  
78番地 京都経済センター403  
電話番号：075-361-2321(変更なし)

### 診断京都

No. 124

2019年1月発行

### 一般社団法人京都府中小企業診断協会

〒600-8431 京都市下京区綾小路通室町西入善長寺町  
143番地 マスギビル502号室

TEL (075) 325-5731

FAX (075) 325-5675

メールアドレス info@shindan-kyoto.com

ホームページ <http://www.shindan-kyoto.com/>

印刷所 榊大気堂 TEL (075) 361-2321

FAX (075) 361-5047